



**agasaki**  
**ながさき未来塾**





塾長 野口 美砂子

### ■ 塾長コメント ■

私たちは長崎の未来がどのようなのか想像はできたとしても、実は誰も知らないのです。ただ、現在（いま）を生きている私たちが、どのような意識で行動していくかで未来の姿を創り出していくことは事実です。

この社会が持続していくかどうかは、これからの私たちの生き方、考え方、暮らし方の選択で違ってくるのかもしれませんが、できれば持続可能な社会であってほしいと願う中で、その鍵を持っているのは「次の世代を担う」いや、「未来の創り手」となる子どもたちではないでしょうか。

子どもたちのつぶやき、子どもたちの未来構想に耳を傾けると、とても明るい長崎の未来が想像できます。そして子どもたちのアイデアを実現に向けた取り組みとしてはじまったのが「ながさき未来塾」です。

3年目となる今年度は、昨年度からの継続企画である「理想の学校」の取り組みを主軸として、集大成の年となりました。コロナ禍での活動には制限があり、また、塾生もなかなか一堂に会することが難しい状況ではありましたが、だからこそ見えてきた課題や大切なことも多くありました。

塾としての活動は一旦終わりを迎えますが、今後も何かしらのカタチで、若者が社会に参

画するきっかけを提供する場として、若者・大人が世代を超えて一緒に長崎の未来を考える場として、仲間たちとともに歩いていきたいです。

### ■ 塾の目的 ■

中学生、高校生、大学生は、想像以上に長崎のまちの未来のことを考えています。

塾活動を通して、これからの社会を創り上げていく子どもたちの、社会につながるきっかけをつくりたいと考えています。

長崎市の課題について、若者たちは「どうすれば解決できるか」といった議論も交わします。その声を多くの市民に届けるため、そして、実現させるため、若者と大人と一緒に活動していく機会をつくる必要があると感じています。

自分たちの未来は自分たちで創造することを前提に、若者たちの、あるいは大人の塾生の「社会参画」を促すことを目的としています。

### ■ 塾の研究・活動内容 ■

「長崎の現在（いま）を知り、長崎の未来について考えて行動すること」を主なテーマとしています。

「ながさき未来塾」の塾生は約40名です。内訳は学生（中学・高校・大学）と、大人とで約50%ずつです。

長崎の未来を担う若者たちが、「ながさき未来塾」の活動を通して、「よりよい社会・未来づくりに参加しよう」という意識を向上させたり、そのために必要な力を身に付けたりすることができるようにすることが、大人の塾生の願いでもあります。若者の意識を向上させるために、この塾では、大人の塾生が

サポートしながら、若者たちに、自分たちのアイデアが（その一部でも）実現する経験をさせようと考えています。

3年目の「ながさき未来塾」の活動をおおまかに示すと、

- ① 新規参加メンバーへの塾活動の紹介、今年度の活動予定について確認、塾生による企画の提案（③④⑤を参照のこと）
- ② 「理想の学校」についての企画
- ③ コミュニティ（共通する興味を持つ者同士が様々な意見交換を行う場所）づくり
- ④ コワーキングスペースの実施  
→コロナ禍の影響により実施できず。
- ⑤ 自己理解の時間（定期的に、自己理解に繋がるテーマを決め学習。個人・チームで掘り下げていき、自身の価値観に気付くきっかけとする取り組み。）  
→コロナ禍の影響により実施できず。
- ⑥ 映画上映会
- ⑦ 塾生の活動内容の紹介（動画作品の視聴）

以上ようになります。

この活動の中で、私たち塾生が学んだこと、気づいたこと、考えたこと、新しいアイデアなどについて、今後、多くの市民の方にお伝えし、一緒に活動する仲間を増やしていきたいと考えています。

### ■ 塾活動の成果（概要） ■

塾活動 3年目の今年度の成果は、「理想の学校」の取り組みによって、若者たちに実現のプロセスを経験する場を提供できたことです。

「理想の学校」自体は昨年度からスタート

している企画ですが、途中、学生間で役割や分担決めが明確になっておらず決定権を有するリーダーが不在である点や、モチベーションを保持し続けることが困難である等の影響により、各企画の立て直し・再始動が必要な状況となりました。

一見、ネガティブにも思える状況でしたが、何事もスムーズに行くことばかりではなく、「目標を立て実行することの困難さ」を学生たちに経験してもらう良い機会になったと捉え、大人によるフォロー方法を転換しました。それまでは助言に留めていましたが、具体的なフォローに入ることで、実行のプロセスを実際に経験する場を創出しました。

また、今年度の「理想の学校」企画の集大成として令和4年2月13日（日）にフォーラムを開催。事務局にも協力いただき総長である田上市長や審議員・議員といった方々、教育に関心を持つ大人、そして若者（高校生、大学生）が参加し、約60名がオンライン上で学校教育について語り合いました。学生・大人に関係なく対等な立場で語り合う「場」に参加できたことが嬉しかった、楽しかったという感想が多く聞かれ、さらには、また参加したいという声も塾内外（学生・大人ともに）から多くもらったうえ、フォーラム運営メンバーからは「もっとこうした方が良かった」などの、先を視野に入れた反省点も聞かれました。

未来創出のために重要な取り組みであるのはもちろんのこと、成功体験を味わえる機会の創出を今後も続けていきたいです。

## ながさき未来塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>令和3年</b>		
6月26日(土)	シビックホール・Zoom	第1回塾会議(新メンバー顔合わせ、今年度活動内容について)
7月4日(日)	Zoom	座談会(東京在住の塾生との談話)
7月24日(土)	Zoom	1年の計画づくり
7月31日(土)	シビックホール・Zoom	映画上映「サクラ花 桜花最期の特攻」 動画作品視聴「アイランドゲーム」
8月1日(日)	シビックホール・Zoom	話し合い「理想の学校」
8月5日(木)	Zoom	話し合い「塾内における情報発信の改善について」
8月7日(土)	Zoom	話し合い「理想の学校」
8月8日(日)	シビックホール	意見交換「理想の学校」(日本と海外の教育の違い)
8月9日(月・祝)	Zoom	話し合い「理想の学校」
8月21日(土)	Zoom	各企画の進捗確認
8月28日(土)	Zoom	フリートーク
9月11日(土)	Zoom	各企画の進捗確認
9月18日(土)	Zoom	塾活動への参加促進に関する意見交換
10月2日(土)	Zoom	中間報告会(リハーサル)
10月6日(水)	メルカつきまち	中間報告会(本番)
10月9日(土)	Zoom	中間報告会振り返り
10月16日(土)	シビックホール・Zoom	話し合い「理想の学校」
11月7日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
11月11日(木)	Zoom	話し合い「理想の学校」
11月20日(土)	Zoom	コミュニティ「学校教育の「科目」を考える」
11月21日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
12月19日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
12月26日(日)	シビックホール	話し合い「理想の学校」

日 時	場 所	内 容
令和4年		
1月9日(日)	シビックホール・Zoom	話し合い「理想の学校」
1月16日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
1月22日(土)	Zoom	話し合い「理想の学校」
1月30日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
2月6日(日)	Zoom	話し合い「理想の学校」
2月11日(金・祝)	シビックホール・Zoom	「理想の学校」フォーラム(リハーサル)
2月13日(日)	シビックホール・Zoom	「理想の学校」フォーラム
2月20日(日)	Zoom	「理想の学校」フォーラム反省会、話し合い「伝習所まつり・成果物作成」
2月27日(日)	Zoom	話し合い「伝習所まつり・成果物作成」
3月6日(日)	Zoom	成果物作成の進捗確認
3月13日(日)	Zoom	成果物作成の進捗確認
3月20日(日)	シビックホール	成果物作成の進捗確認、談話

## I 企画立案

- 内容 今年度活動内容について、塾生から企画の提案
- 日時 令和3年6月26日(土)
- 場所 シビックホール・Zoom
- 参加者 19名

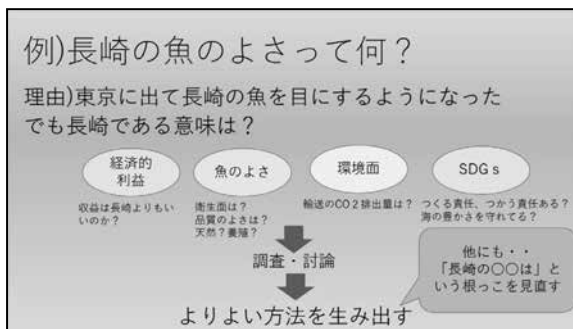
### 案1 コミュニティの継続

※コミュニティとは、共通する興味を持つ者同士が様々な意見交換を行う場のこと。

→昨年度からスタートしたコミュニティを今年度も継続する。教育、政治、ジェンダーなど、塾生の要望に沿ったテーマについて学び、考えを共有する。

### 案2 長崎マネジメント

- 目的 長崎のあらゆるものをマネジメント(見直し)する。
- 方法 関係者・塾生と協力していいところ、改善点などのような答えを自分で導き出す。最終的に関係するすべての人に報告・提言を行う。
- ポイント 多角的な視点で物事を見る  
→長崎を見て、自分で長崎を改善



## 案3 コワーキングスペースの新しいカタチ

→昨年度に開催したコワーキングスペースを、より発展させる。無料塾(教師を目指す学生による教える体験の場、先輩⇄後輩による勉強の教え合い)やコミュニティ企画とのコラボレーションなど。

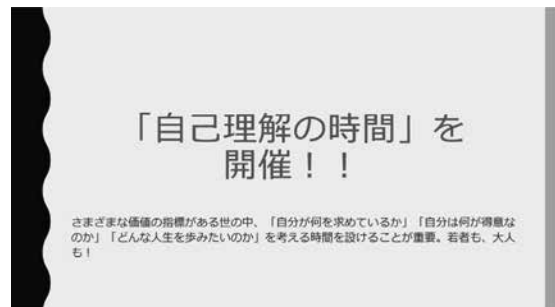
⇒コロナ禍の影響により実施できず。



### 案4 自己理解の時間

→定期的に、自己理解に繋がるテーマを決め学習。個人・チームで掘り下げていき、自身の価値観に気付くきっかけとする。

⇒コロナ禍の影響により実施できず。



## II 塾運営の改良に関する議論

### 1 塾全体・個人の目標の再確認

→これまでは色々なことをやってみて楽しむ視点でも問題なかったが、塾活動3年目は全員共通・個人の目標を再確認した方が良い。塾活動を通して何を得たいのか。

### 2 コミュニケーション（支え合い）・ハウレンソウの大切さの再確認

→「誰かがやってくれる」という考えを改め、リーダーをみんなで支え合う。情報が、塾生に行き渡るように報告・連絡・相談を徹底する。

### 3 具体的なスケジュール管理

→計画的に活動するため、スケジュールを明確に定め、進捗を管理する。

#### 1 ながさき未来塾に必要なこと

- ・ 全員、個人の目標
- ・ コミュニケーション(支え合い)
- ・ ハウレンソウの徹底
- ・ 具体的なスケジュール管理

### 4 発言しやすい環境づくり

→参加年数が短い塾生からの提案。意見を発言しやすい・共有しやすい環境の整備が必要。(発言や質問を控えた塾生の経験から。)

ツールとしてオンラインホワイトボードの利用も提案、テスト施策として塾生向けのポータルサイトを作成。(議事録等を掲載するシンプルな仕様。)

### 5 参加のハードルを下げるための議論

○参加方法（Zoom等のオンライン／対面）

○人間関係（コミュニケーションの時

間はまだ少なく、塾活動が楽しいと思える状況に至っていない等）

○塾活動との付き合い方（塾の方向性が曖昧、誰もが主役級の活動をしたいとは限らない等）

## III 「理想の学校」に関する取り組み

昨年度からスタートした「理想の学校」について、本格始動。

○ 「そもそも、学校とは？」を議論

○ 「理想の学校とは？」を議論

○ 日本と海外の教育の違いに関する意見交換

○ 具体的な「理想の学校」を考えていく手段として、4つのチームに分かれて活動（アンケート・インタビューの実施／フォーラム開催／提言／学校情報のデータベース化）

○ フォーラム開催および、各グループの成果発表（令和4年2月13日（日）13時～15時、オンラインにて開催。）

## IV 映画・動画作品の上映会

○上映作品

サクラ花 桜花最期の特攻（松村 克弥 監督）／アイランドゲーム（塾生・弓川くんの自主作成動画、Youtubeにて公開中）

○日時 令和3年7月31日（土）

○場所 シビックホール・Zoom（座談会のみ）



## ■ 活動の成果と提言 ■

### 1 活動の成果

#### ① 実現（企画立て直し含む）のプロセス体験の提供

冒頭の塾活動の成果（概要）でも触れたとおり、今年度の最も大きな成果は、「理想の学校」の取り組みによって、若者たちに実現のプロセスを提供できたことです。

途中、学生間で役割や分担決めが明確になっておらず決定権を有するリーダーが不在である点や、モチベーションを保持し続けることが困難である等の影響により、各企画の立て直し・再始動が必要な状況となりましたが、大人の塾生がフォローに入ることにより、企画を中止することなく、今年度の活動を終えることができました。

#### 「理想の学校」の取り組みの変遷（今年度）

最初に取り組みを提案した塾生（学生メンバーにおける副塾長）が受験生となったため、メインメンバーより離脱



学生メンバーにおけるもう1名の副塾長が、学業・アルバイト・その他自主活動による多忙を理由にメインメンバーより離脱



大学1年生の塾生がリーダーに立候補したものの、東京からの参加であるため、コミュニケーションが難しい場面も発生



結果、令和3年12月12日に開催を予定していた第1回目のフォーラムを中止。（準備不足と判断し、塾長・副塾長（大人メンバー）より開催日の見直しを指示。以降、企画の仕切り直しから実行まで直接サポート。

### ○アンケート・インタビューチームの活動成果

・アンケートの実施（大人の塾生は、アンケート項目の協議において学生からの相談受け、項目見直しの提案を実施）

・アンケート分析結果は、令和4年2月13日に開催されたフォーラム内で発表。学生と大人の意見の共通点・違いを中心に分析。参加者からも「おもしろい取り組み」と、好評であった。

＜分析結果（一部）＞

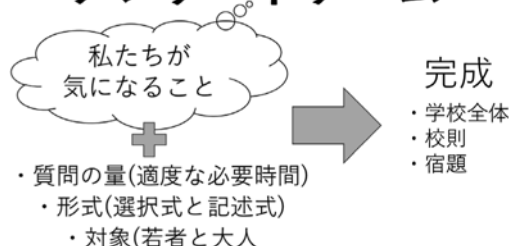
- ・宿題の活用方法  
→平常点の価値が昔よりも今の方が高い
- ・校則  
→学生も大人も、多くの人が校則に対して疑問を感じている(た)
- ・現在の校則に関わるべき人  
→学生も大人も、生徒が関わるべきと考えている

### アンケートチーム

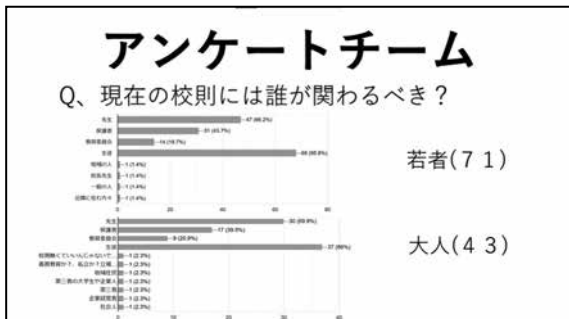
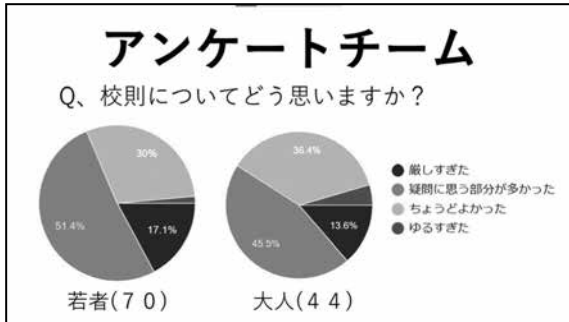
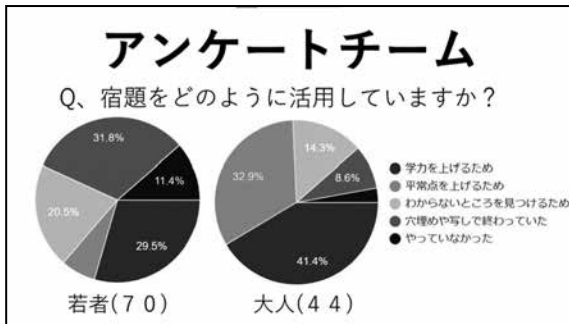
活動内容：  
今年度9月～  
「学校に関するアンケート」  
の作成、実施、集計、分析

SNS(Instagram,LINEなど)で  
117回答(今年2月9日時点)

### アンケートチーム







### アンケートチーム

対象：大人  
Q、これから力をいれるべき教育は何だと思いますか？

英語、コミュニケーション・・・  
+  
マナー、他者の尊重、  
考える力を身に着ける・・・

○学校情報のデータベース化チームの活動成果

- ・長崎市の学校評価を参照し、数値から読み取れる内容を分析して客観的に教育を考える。

- ・分析結果は、令和4年2月13日に開催されたフォーラム内で発表。一般の参加者(大人)より「学校評価の存在

を知らなかった。」「学校評価そのものに関する議論も必要。」「もっと活用できるデータ、一緒に分析しよう」など、今後の活用・発展に繋がる反応を得ることができた。

### データベースチーム

目標：  
長崎の教育について、  
客観的なデータに基づき、  
現状の課題を見える化して  
今後を考える

### データベースチーム

長崎市教育委員会の  
市立小・中学校の学校評価のデータ  
↓  
分析して数値から客観的に教育を考える

(小学校平均)  
最も高い・・・  
最も低い・・・  
児童「生命や人権」 「生活習慣」  
保護者「学校の雰囲気」 「家庭学習」  
教職員「いじめ防止対策」 「あはは運動」

(中学校平均)  
最も高い・・・  
最も低い・・・  
児童「生命や人権」  
保護者「衛生管理・健康教育」  
教職員「生徒児童の安全」  
最も低い・・・  
共通して「家庭学習」

### データベースチーム

現状  
・具体的な背景を知ることが大切  
・学校ごとに数値の傾向があると分析

今後  
・アンケートそのものを考えたい  
・学校評価だけでなく、様々な指標から考えたい

○フォーラム・提言チームの活動成果

- ・当初、フォーラムは2回(1回目：学生のみで学校教育に対する不満・疑問などを共有する。2回目：1回目の

フォーラムで話した内容を土台に、年齢に関わりなく語り合う開催を検討していたが、準備不足と判断し塾長・副塾長（大人メンバー）より開催日の見直しを指示。1回目を中止とし、2回目の内容を再考。

・提言チームの活動停滞が見られたため、大人の塾生も参加しゴールを再確認。結果、誰に・何を伝えたいかを考えるなかで、まずは「語れる場」をつくることから始めないといけないのでは？という点に到達し、最終的には、フォーラム・提言チームのコラボレーションにより、フォーラム自体を「(学生・大人に関係なく)語れる場」づくりのきっかけとなるイベントとした。

・令和4年2月13日に開催されたフォーラム『語らおうよ、これからの「学校教育」』を開催。(上述のとおりアンケート・インタビューチーム、データベースチームの成果発表も併せて実施。)



ご招待  
語らおうよ、  
これからの  
「学校教育」

長崎の未来を考える、ながさき未来塾。  
「未来」の象徴として「学校」をテーマに取り組む  
『理想の学校』プロジェクトより、  
フォーラムのご案内です。

「今、学生生活を送る学生たちの目には、  
「学校」がどのように映っているのか？」を土台に、  
学生も大人も一緒に  
「学校教育」をテーマに語ります。

《日時》2022年2月13日(日)13時～15時  
《会場》オンライン(ZOOM)

←こちらからお申し込みください。  
(※締切:2月5日(土)23時59分)

《問合せ先》ながさき未来塾(長崎伝習所)  
TEL: 095-822-8161  
メールアドレス: mirajuku.wakamono@gmail.com  
Instagram: @mirajuku\_wakamono (QRコード)

事務局にも協力いただき、田上富久総長や長崎伝習所の運営委員、議員といった方々、教育に関心を持つ大人、そして若者(高校生、大学生)が参加し、約60名がオンライン上で学校教育について語り合った。



学生・大人に関係なく対等な立場で語り合う「場」に参加できたことが嬉しかった、楽しかったという感想が多く聞かれ、さらには、また参加したいという声も塾内外(学生・大人ともに)から多くもらったうえ、フォーラム運営メンバーからは「もっと改良できる点があった」などの、先を視野に入れた振り返り・反省点も聞くことができた。

なお、司会進行やファシリテーション、台本の素案作成は学生メンバーにて担当。大人メンバーにて、台本作成の総括(イベントの流れ・Zoom操作の手順検討を含む)、総長(田上市長)やその他関係者の招待(事務局への協力依頼)、会場の確保(最終的にオンラインイベントへ移行)、Zoom操作を担当。また、学生メンバーも運営スタッフとして関わらせることで、イベント開催のプロセスの体験を通じて実現のプロセスを体験する場を提供。

## ② 課題の再認識

塾活動3年目を迎え、加えてコロナ禍であったこともあり、組織管理・運営の難しさを再確認することができました。ネガティブなトピックではあるものの、活動をより発展させるための材料であると捉え、「成果」として報告させていただきます。

### ○目標・塾方針の明確化の必要性

昨年度までは様々なテーマを取り上げて活動してきた。色々な価値観があることを知るための姿勢であり、塾生の構成が様々な世代からなるながさき未来塾ならではの、ポジティブな特徴であった。

しかし3年目ともなると、この特徴によってかえって塾の方針が曖昧になってしまった。年度初めの時点で塾全体・個人目標の重要性について議論する機会自体はあったが、ターゲットを絞り、塾の方針をきちんと明確にし、塾生へ示すに至らなかった。

また、目標や塾方針は“塾参加によるメリット”の明示でもあった。塾活動に参加する塾生が減少・固定化される傾向が見られ、その要因として学業・仕事による多忙を理由にあげる塾生が多かった。学業や仕事が重要なのは当然のこととして、「絶対に塾活動に参加したい」と思ってもらえるような、魅力やメリットの提供・アピールも不足していたと考える。

### ○コミュニケーションにかかる時間の少なさ

昨年度までと今年度の違いに、新メンバーがこれまでに最も増加した年度であったことがあげられる。

昨年度以前に参加していたメンバーとは、

コロナ禍前に対面でコミュニケーションを図る機会があり、企画を進める等においてもスムーズに交流できる関係性を築くことができた。



しかし、新メンバーに対しては既存メンバーと比較するとコミュニケーションをとる時間を確保できず、相互の信頼性構築が十分ではなかった。なお、要因として、新年度の開始後間もなく、コロナ禍の影響によりコミュニケーション手段を対面→オンラインへ切り替えざるを得なくなった点と、新メンバーが（環境面・心理面ともに）オンライン会議に不慣れであった点があげられる。

既存メンバーとのコミュニケーションについてはオンラインの会議ツールは大変有効であるが、塾の雰囲気慣れていない、メンバーの名前もまだ覚えていない新メンバーにとっては、ハードルの高い手段であった。また、そういった既存メンバーの精神的支えとなるリーダーを立てられなかった点も反省すべきであると考えます。

## 2 提言

コロナ禍において一気に普及したオンライン会議ツールは、今後もコミュニケーションツールとして世界の主流であり続けると考えられます。ぜひ、長崎伝習所による、「インフラ」としてのインターネット環境整備のサポ

ート（IT 機器・インターネット接続機器の貸出など）を提言いたします。

本来は長崎市民へのサポートであるべきと考えますが、少なくとも“自主活動”からなる長崎伝習所の塾生に対しては、「塾生同士で集まる手段」としてインターネット環境整備のサポートをお願いしたく存じます。

### ■ 塾生の感想 ■

昨年度に引き続き今年度もコロナ禍での活動となりましたが、昨年度と今年度では大きな違いがありました。

昨年度は社会全体が急激に変化し、初めて経験することばかりだったためか、良くも悪くも多くの塾生が“当事者”としての感覚をもって活動していました。これに対し今年度は、行動が制限されている状況においてモチベーションや計画性・自主性を保ち続けることの難しさを実感しました。塾生の多くが学業や仕事に追われ、時間的余裕、そして、精神的余裕がない様子を目にする機会が多かったように思います。

塾活動は学業や仕事ではない「自主的な活動」だからこそ、人びとがそれに携わるのが難しい状況であること自体が、長崎（市）の社会機能が正常でない状況とも受け取れます。

コロナ禍であるなしに関わらず、目標を定め・計画を立て・実行するプロセスを経験できる機会の創出と、一緒になって取り組める仲間が集う場が必要不可欠であり、ながさき未来塾はその役割を担うものだと考えます。

今後もさらに発展し、長崎市民にとって必要不可欠なコミュニティになるものと考えます。



なお、成果として「実現のプロセス体験を学生へ提供した」旨を掲載しましたが、プロセス体験は大人の塾生にも必要なものだと考えています。それは、さまざまな価値の指標がある世のなかで、「自分が何を求めているか」「自分は何が得意なのか」「どんな人生を歩みたいのか」を考える時間を設けることが、年齢に関係なく重要という考えによるものです。

残念ながらコロナ禍の影響により開催を見送りましたが、年度初めに提案した「自己理解の時間」（自己理解に繋がるテーマを決め学習。個人・チームで掘り下げていき、自身の価値観に気付くきっかけとする企画）を企画したのも、この考えによるものです。

「自身が何を望んでいるか？という問いに向き合い、その背景に何があるかを分析し“本当の望み”を明確にする。（＝自己理解の時間）

そこから、どうやって実現していくかを検討・調査し、トライ&エラーを繰り返しながらゴール到達を目指す（＝実現プロセスの体験）」ことが、今を生きる私たちには、年齢に関係なく重要だと考えます。

「ながさき未来塾」としては一旦終了を迎えますが、一緒に活動してきた仲間たちとともに、今後も3年間の経験をより良いものに発展させていきたいです。（副塾長 坂田絵美）

## ながさき未来塾

塾長	野口 美砂子				
1	荒木 俊明	21	堤 和恵	41	
2	井家上 知花	22	寺田 理香	42	
3	浦 仁美	23	中野 聖子	43	
4	大草 一俊	24	長濱 航	44	
5	尾上 大和	25	中村 聡	45	
6	川内 颯馬	26	濱田 和史	46	
7	熊 洋彩	27	原田 香都	47	
8	久米 一生	28	稗圃 史晃	48	
9	久米 大晟	29	深堀 由倫香	49	
10	久米 初	30	布志木 美名	50	
11	黒澤 美陽	31	船井 柊星	51	
12	小出 向陽	32	寶子山 海	52	
13	小橋川 直美	33	本田 圭子	53	
14	酒井 亜架利	34	増田 和美	54	
15	坂田 絵美	35	松尾 秀	55	
16	佐藤 恵	36	宮村 真理	56	
17	下田 真太郎	37	保家 廉太郎	57	
18	城尾 忠明	38	弓川 之富	58	
19	城尾 多満子	39		事務局員	都市経営室 松尾 友里香
20	田代 雅美	40		事務局員	都市経営室 元尾 賢治